會

贈及ば n

ける扶助

料は

金

を続

あ

金か E 繞り

ζ.

T 種が K

D.

3 T

甚だしきや、

如

物

の甚だ

何ぞ男

らし

からざ 何に 2

13

文明

3:

n

余

体

或

狐

11

元來が

會社

者に

對し最低金

9

節

×

×

祉 社 より 會

カ>

狀災

るの意

弟の

人がれる計

去る

こしての本分である。 ころが肝要である。

h

展

望

臺

本点の

春は轉た

爛漫

長

面沿

向味ある行動である

陋

73

3 3 0

炭礦町田坑内に起つた火

義務を果たし得るご信ず本を信條とする日本民族

親愛なる遺族諸君の中に磐城炭礦に居住しついる

ない。

かくありてこそ忠孝

べにをし

に對する體であらねばなら

は會社の弱味につけ込み無べは會社の弱味につけ込み無い。 では會社の弱味につけ込み無い。 では自己の弱味につけ込み無い。 では自己の弱味につけ込み無い。

災のために殪れた百巻拾四名の 遭難者並に遺接に對する會社の 待遇は全く到れり霊せりで或る 行過は全く到れり霊せりで或る である。

帝國は京清後等 帝國は京清後等 帝國は京清後等 帝國は京清後等 帝國は京清後時 中である、わがもその金を會社に供托したである。 一旦本 人の駒を引帰いた。 本書美を書り得した。 本書美を書り得した。 本書美を書り得した。 本書美を書り得した。 本書美を書り得した。 本書、 一世の等の希望のできる。 本書、 一世の等の希望のでは、 一世の等の本書、 一世の第一世の書、 一世の書、 一世の等の本書、 一世の書、 一世の等の本書、 一世の等の本書、 一世の等の本書、 一世の等の本書、 一世の書、 一世 春ばで 生

0

遺族諸君の

多く

に、供覧は 最終しつれ

論 靈

の第 者の慰 笑を招 以一残れる子の 不者子の ア

Ø2 親子兄はむべし、かる風間あり、斯く 情を失ひし などの前には

の気候ぎるいかるに 斯るの 5 花以外更に 斯花ありては 日下あ

國を誤まる。 りにも卑怯千 なるや。 春は あ み。

に設置云々と語る。 支那國民黨の支部

部"

を

日本 あ

金四拾參圓五拾

遠藤庄作外二十名

語だるも

·Ø

金金金金 金四四四治治治 月月月

平平平平

町町町町 五三二丁 丁丁目目目

千萬元 八社會を毒し > 何 ぞ醜 3 陋? 流。

日居

本な日

大民族に

市國のヤ

の機

悟さた

金五拾

圓圓

金五拾四圓九,一錢

力> る

あ

\(\)

7-0

愛行東編輯 桑 折 將 縮高原石東部平向一丁目二名九張地 田副所 魯孟 平 活 版 所 編島県石城部戸郷村子宮神二津地 愛行所 張磐 つるはし配

月二回十五日卅日發行四頁 代價一部五錢 一ケ月十錢

つるはし配

では、

くす、支那は内閣に、サイマンでを表す。 世は事がて 花見に夢

△々片嘴鶴▷ 耻。

b

0 حج

130

海を越えて

小野田建築職工一同丁 內郷理髮組合

支那

民族 82

次の下位に

千代田指定商

せ カ>

ż

0

ある。

n

日を繋を 飯でヤ こる徒輩跋扈 扈 如ぎす

れ前きの 何の兆ぞや。 手先となるが ž あ 朝まシ

イツイトウス

ンノショオシミ、ヘルヵニチョウ ニッキ、タスウギセイシヤショク

タビ、マチダコウノヘンサ 樺太から弔電

重內坑職工

2

金譽拾七圓頂拾譽錢 カラフト ワタナベ

佐志山 藤賀

重商

金灣拾五圓 渡邊良藏外六名金灣拾季圓八拾錢 平 町 鍛治町 4 金灣拾季圓八拾錢 平 町 鍛治町 4 金灣拾壹圓六拾錢 德德 永原

勿來坑職員有志 松吉屋本店 中 日 本店 金叁拾圓宛 吉 古 內 源 喜 分 河 喜

松 町田 組合 岩松源太郎外十九年 北坑支桂夫一同古 內 光 吉 名 瀧加 高岡 藤

澁

澤

鶴

金拾五圓宛 宮澤組合一同 組 新太郎 多 合

◆景全場葬なかやめ

余名の生靈を喪された。

年記水加公

深かへて

0

是難者遺族獨城炭礦

の意を表すべ

ž

-----報 畫 眞 寫 葬 社

はります。花に酔ふてれる

が一醉

ふ て. 3

不・在る氣。可かひをを

廻訊

《産黨を討滅すべ愛國の士は起て

T

べ

矣。

殺けの

(三 其) せな鼠痴氣は慎しな徒らに自我奔放の れ如 \Diamond

ぬ何 機を孕む 隣接支那の する かに やはかり 於てをやりりは 擾亂

高萩政喜外

やうに見られてゐるのさ同一轍党が實力もないのに宣傳で强いみで立つてゐるこさは支那共産

これ

なりこ攻撃するもの は或る有志家が停車場での なれば、 をしも不誠意なり、 それは人間で無い 立話 傾暴 3 Ъ

\$

取ち 力の無いものが口や宣傳 がうまいのは古來から定まつて ある正々党々さ争ふ力が無いか ら奇兵や權謀術策に據らうさい ないないない。 ないのに徴しても明不平あるもの未だこ

して遺族達を慰めたこさに關 百圓最高金三千圓の手當を扶助 ある

本電拾八圓 雄 作山 吉子 水 國 雄 作山 吉子 水 國 雄 作山 吉子 金貳拾壹圓五拾錢 金貳拾七圓八拾錢 金質拾五圓 志 賀 清 宮代新友組合高坂採炭同志會

F

むべし矣か く 衣 百 悼册 金頂百圓 喬長 牛 井金百貳拾八圓六拾五錢 金金金金金金金 金元八豐 宣言 百百百四四日 圆圆圆 干慰 金 贈 芳 金五拾六圓五拾 金坂組合 熊 田

同 郎村八雄會志 五十嵐 一也 也不 喜次郎 大字高坂一同志 賀 兵 吉 作 宣青年初 本工場 本工場 本工場 本工場 本工場 本工場 本工場 不可維定 國國會 就原養雄外一- 雫遠 平 石藤 南 政米 德吉町 世 12

あ つはものぎもよ れば 震まつ 丙 午

h

社葬を想ふて

金拾七圓四拾錢 高坂撰炭場一 澤田 內商 業

() 人三郎 () 要 不 () 是 , () 是 。 () 是 康 店 濱之助 同團

I縣人 酒造店

名古屋紡績郡山工場 金貳拾圓宛

為 金 高 郷 大 田 表 町 和 所 一芳,商 店 板坑共濟會 和田 勝司 原 信 の商